芭蕉元禄事業　奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年二月度　入選句（投稿総数一九九一句・小中学投句数一四五八句）

選者　臼井　静子

特選

雪の中カラスひっそりえささがし　大垣市　池田　涼菜(小五)

カラスは人間の一番身近にいて一番の困らせ者。鳴き声が嫌という人もいるでしょう。でも、人間にとって困る行動は、生きるための仕方のない行動でもあります。

作者の見たカラスは冬の寒さの中でも、えさを探していたのですね。雪が降って雪でえさも見えません。えさが無くては生きていけません。でもカラスは無心に探しています。

生きることに真剣なカラスの姿に、作者はそっと温かいまなざしを送っているように思います。小さな命を大切に思うやさしさが伝わります。

雪が降る静かに街が白くなる　美濃加茂市　片田　雄大(中二)

雪が降っていても、街は何かと騒がしいものです。車の音、クラクション、電車の音、警報機の音。そういったものをすべて包み込んで、雪が静かに降っている。そして、見る見るうちに白い街へと変えていく。

作者がはるか高く遠い所からこの街を見下ろしているようです。きっとそこには街の音も届かないのでしょう。ただ静かに降る雪が、白一色の街を静かに形作っていく。

雪の降る静かさだけでなく、街が静かに白く変わっていくという、二つの静かさに目を向けた佳句です。

花屋さんポインセチアの花畑　大垣市　福井　花菜(小六)

ポインセチアは、クリスマスの花として、冬には人気のある花です。今では赤い葉に緑の葉という定番の物から、ピンクや黄色、薄緑まで、いろいろな色の花が登場しています。

そんなポインセチアが、花屋さんの店先に所せましと並んでいたのでしょう。きっと店先が花畑のように華やいでいたのでしょう。思わず立ち止まって見とれてしまったのかもしれません。

見たままの景色を素直に詠んでいるところに共感を覚えます。

秀逸

まどをあけひかりとびこむ雪の朝　大垣市　大塚　こうしろう(小三)

冬の月私をてらしはげますよ　大垣市　山形　萌恵香(小六)

雪だるま何も語らず消えてゆく　美濃加茂市　岩井　ののか(中三)

寒すぎて頑固になったチャリのギア　美濃加茂市　村瀬　光洋(中三)

同じ札ずっと見つめるかるたとり　大垣市　齋藤　優衣(小五)

へんじして元気にとったかるたとり　大垣市　炭竈　玲亜(小二)

白いいきはーっとはいていってきます　大垣市　木村　さな(小二)

けんかしたともだちからの年がじょう　大垣市　まぶち　圭吾(小二)

妹のバケツの水に氷はる　大垣市　炭竈　凛奈(小四)

節分になるたび増える豆の数　大垣市　糀矢　みう(小五)

入選

さむいよるとなかいのってくるのかな　大垣市　松岡　大治（小一）

とくとうせきベランダのねこ日向ぼこ　大垣市　秦　柚葉（小三）

初もうでみんなの健康いのってる　大垣市　岩田　実乃（小四）

朝のまどつららの顔がならんでる　大垣市　仲井　心菜（小四）

こままわし達人目指すお正月　大垣市　佐竹　一希（小四）

あぁ見たいなかみが気になるお年玉　大垣市　山口　乃愛（小四）

除夜の鐘ああ一年はもう終わり　大垣市　安田　帆乃華（小六）

ストーブの前はみんなの特等席　美濃加茂市　加藤　万弥（中二）

ざくざくと霜柱の上歩いてく　美濃加茂市　國本　拓也（中二）

溶かされて身長縮む雪だるま　美濃加茂市　平下　珠里（中三）

入選

重なったみんなの手のひらかるたとり　大垣市　西本　多恵（小五）

初雪にまだなれてない歩き方　大垣市　森本　輝人（小六）

せつぶんだどんなおにさんやっつけよう　大垣市　山田　祐鈴（小二）

はやく咲き目立ちたがりやの梅の花　大垣市　山田　優杏（小四）

妹と雪で遊んで耳まっ赤　大垣市　大橋　楽夢音（小四）

カゼをひきねてろといわれひまですな　大垣市　杉原　勇次（小四）

ストーブの前で家族が大集合　大垣市　平松　礼夢（小四）

しろいゆげあつあつおでんであたたまる　大垣市　川股　悠月（小四）

こたつから出ることできんおそるべし　大垣市　小谷　熙人（小四）

でてきてねロケットみたいにふきのとう　大垣市　海老　壱喜（小五）

選者吟

陽を受けて夜の間の雪姿消す　静子